

日本植物園協会ナショナルコレクション申請書

新規申請

更新申請(認定番号 認定期間 年 月 日～ 年 月 日)
(いずれかに)

■申請年月日 2019年12月23日

■コレクションのテーマ

日本花の会 サクラの種・品種コレクション

■申請団体・申請者名

公益財団法人日本花の会

■申請団体の代表者名(個人での申請の場合は不要)

非公開

■申請団体・申請者の連絡先(住所、電話、メールアドレス)

非公開

■コレクションの所在地(コレクションが分散している場合は主たる所在地)

公益財団法人日本花の会結城農場

〒307-0044 茨城県結城市田間 2217

Tel. 0296-35-0235 FAX 0296-35-3385

■現地審査希望時期

2021年4月1日 ～ 2021年4月20日

希望する理由:

例年この期間中に多くの種類が開花期を迎えるため。

■コレクションのテーマ

日本花の会 サクラの種・品種コレクション

■コレクションの概要

(公財)日本花の会は1962年に建設機械メーカーである(株)小松製作所の当時の社長であった河合良成の提唱により設立された財団で、花や緑を愛する多くの方々に支えられながら、美しい地域環境づくりや豊かな生活環境づくりに貢献してきた。創立時より日本の伝統的花木であるサクラ類の園芸品種の保存と普及を目的として品種収集を開始するとともに苗木生産に取り組み、1969年から結城農場(茨城県結城市)において、収集したサクラの品種保存と特性調査および多品種の苗木生産を行っている。

1982年には「日本のサクラの種・品種マニュアル」(サクラの品種に関する調査研究報告書編集委員会 1982)を刊行するとともに、同書に掲載された193品種を中心として植栽・展示する桜見本園を結城農場内に整備し、本格的なサクラ類の遺伝資源の収集・保存を開始した。それ以降も国内各地はもとより、イギリス、オランダ、ベルギー、アメリカ、台湾などからも園芸品種および野生種を導入し保存を図るとともに、一般公開も行い、「染井吉野」だけではない多様なサクラ品種の普及・啓蒙に努めている。現在では様々な種類のサクラ類が楽しめる名所として全国的に知られるようになり、毎年3月下旬から4月には来園者で賑わっている。

桜見本園は品種の保存、啓蒙とともに桜の名所づくりの参考となるよう品種保存園やモデルガーデンを設けている。また、「桜の名所づくり」事業として、保存品種の特性調査などから名所づくりに適した品種選抜を行い、「大漁桜」(タイリョウザクラ)、「神代曙」(ジンダイアケボノ)、「舞姫」(マイヒメ)(当会育成・農林水産省登録品種)、「紅華」(コウカ)などの優良品種の苗木を量産し、日本各地に提供するなど「桜の名所づくり」を支援する活動にも取り組んでいる。

当会が保有するサクラ属コレクションは、サクラ類を栽培・保存する施設としては国内最大級の365種類からなり、学術研究の材料としても多数利用されるなど、日本のサクラ類の遺伝資源保全に寄与している。

【引用文献】

サクラの品種に関する調査研究報告書編集委員会. 1982. 日本のサクラの種・品種マニュアル. 448 pp. 財団法人 日本花の会.

■申請者が保有するコレクションの種数、品種数、個体数(保有植物リストおよび写真は、別紙「保有植物リスト・写真ファイル作成要領」にしたがい提出)

①種類数(種数、品種数)

野生分類群 11 種 4 変種 4 品種、自然交雑分類群 7 種類、園芸品種 339 品種からなる 365 種類(未同定株を含む)。

②個体数

1 種類につき 1~30 個体(大半は 1~2 個体)を所有しており、総数は約 800 個体。

■申請するコレクションのこれまで報告されている総数と申請者が保有する数

①これまで報告されている総数

サクラの野生種数は研究者によって異なるが、「新日本の桜」(大場ら 2007)は世界で約 100 種、日本に 11 種があるとしている。また、園芸品種数は品種登録機関がないことや研究者による様々な意見や見解があり未だに全貌はよく分からないものの、江戸時代の文献である「怡顔齋桜品」

(松岡玄達 1758)に 69 品種、「花譜」(市橋長昭編、櫻井雪鮮画 1803)に 234 品種の名前が挙げられるなど古くから多くの品種が知られている。また、「新日本の桜」(大場他 2007)は 395 品種の名前を掲載し、「最新園芸大辞典」(最新園芸大辞典編集委員会 1983)では園芸品種名の総数は 877 との記述があり、380 品種名を掲載している。これらには重複や異名同種、同名異種なども含まれていると思われるが、品種名の総数は 800 ほどに達すると推定される。

②申請者が保有する数

当会が保有するサクラ属コレクションは、野生分類群と園芸品種を合わせて 365 種類に及ぶが、これは国内のサクラ類を栽培・保存する施設としては独立行政法人 森林総合研究所 多摩森林科学園(約 600 系統:吉丸 2015)や国立遺伝学研究所(約 200 種類:<https://www.nig.ac.jp/koukai2021/nigsakura.html>)などと共に国内最大級である。

【引用文献】

市橋長昭(編), 櫻井雪鮮(画). 1803. 花譜.

松岡玄達. 1758. 怡顔齋桜品. 189pp. 安藤八左衛門.

大場秀章・川崎哲也・田中秀明・木原 浩. 2007. 新日本の桜. 263 pp. 山と溪谷社.

最新園芸大辞典編集委員会(編). 1983. 最新園芸大辞典 10. 414 pp. 誠文堂新光社.

吉丸博志. 2015. 日本産サクラ栽培品種の系統管理に関する研究の推進. 森林遺伝育種 4: 52-54.

■コレクションの栽培管理状況(所在地が分散している場合は、ここに全てを列記)

結城農場内(約 8ha)に設けた桜見本園に約 300 品種が植栽・展示されている(すべて地植えによる露地栽培)。また、育成圃場(非公開)において新規導入品種や後継樹などを栽培している。栽培スタッフ 6 名により栽培管理(除草、施肥、剪定など)を定期的に行い、良好な生育状態となるよう努めている。

■コレクションの導入記録及びデータベース化の状況

導入記録および育成履歴は、紙媒体およびデジタルファイルの両方で情報を記録している。1963 年以降の導入記録は保存されているが、抜け落ちている箇所や現在の保存個体と整合性がない箇所もある。また、桜見本園については管理用の植栽地図もデジタルデータとして作成しており、必要に応じて紙に印刷して植栽箇所を示すことができる(植栽地図の一般配布はしていない)。

■コレクションのラベル表記状況(栽培管理用ラベルや展示用サイン・ラベルなど)

桜見本園に植栽した品種については品種名、個体管理番号を記入した樹名板を設置している。非公開部分の圃場で育成中の個体については簡易表記としているものもある。

■コレクションへの協力団体・協力者(種名の同定、導入など)

品種同定をはじめとする情報交換については、過去にはサクラ属の分類研究者として著名な故・川崎哲也氏、現在は大原隆明氏(富山県中央植物園)、勝木俊雄氏(森林総合研究所)、藤原隆之氏、中井貞氏(京都府立植物園)、清水淳子氏(東京大学大学院理学研究科附属植物園)を始めとする研究者と緊密に連絡を取って行っている。また、前述の研究者の所属機関や国立遺伝学研究所などのサクラ品種保存機関や、多数の栽培品種の育種家である北海道松前町の浅利政俊氏らとの交流により、野生種や園芸品種の新規導入や交換を行っている。

■コレクションの長期保存のための方策と体制(増殖、栽培管理上の工夫、栽培技術者や後継者の育成、危険分散等)

苗木の増殖、育成は接木によるクローン繁殖を行っているが、その台木には病害や親和性の問題があり樹齢が短くなる傾向があるといわれているマザクラなどの挿し木苗の使用は避け、必ずそれ以外の実生台木を使用している。実生台木は当農場で播種して育成したオオシマザクラとエドヒガンの1年生苗を用いているが、台木の種類は増殖する穂木品種との親和性に合わせて使い分けている。

農場内ではもともとサクラ類の苗木の大量生産を実施しているため、衰退した個体の後継樹育成や新規導入品種の繁殖および育成技術は新採用職員へも順次継承されている。また、財団内に日本緑化センター認定・樹木医が複数名在籍しており、日常的に各個体を観察し適宜殺虫や施肥などの日常管理を行うとともに、衰退の恐れがある種類や個体については適宜、上述のような接木による更新を行うなど、コレクションの保存管理に努めている。さらに、当農場は前述のように全国の桜品種保存機関との交流があり、適宜苗木の交換も行っているため、これが危険分散の役割も果たしている。

■コレクションの公開の現状と今後の方針、これまでの広報・利用実績(研究等を含む)

①公開の現状と今後の方針

農場内の「(公財)日本花の会桜見本園」として年間を通じて無料で一般公開を行っている。3月中旬～4月中旬が最も開花種類数が多い時期であり、その期間を中心に毎年約2000人が見学に訪れている。本農場は結城市による「結城百選」にも選定されている(<https://www.city.yuki.lg/sp/page/dir000011.html>)。また、保存している品種については当会のホームページ上に「桜図鑑」のコーナーを設けて、各種類の樹形や花形などの特性や本農場での開花時期などの情報を公開している(<https://www.hananokai.or.jp/sakura-zukan/>)。今後もこの公開方針が維持される予定である。

②これまでの広報・利用実績

当農場のコレクションは以下のような図鑑類で撮影地を明記した写真が使用されている。

大場秀章, 川崎哲也, 田中秀明, 木原 浩. 2007. 新日本の桜. 263pp. 山と溪谷社.

永田 洋, 浅田信之, 石川晶生, 中村輝子. 2010. さくら百科. 364 pp. 丸善.

Kuitert W. 1999. Japanese Flowering cherries. 395 pp. Timber Press, Portland.

また、さまざまなサクラ類が見られる場所として下記の文献などで紹介されている。

林 弥栄, 戸井田道三. 1975. 平凡社カラー新書10 さくら百花. 144 pp. 平凡社.

大原隆明. 2009. サクラハンドブック. 88 pp. 文一総合出版.

勝木俊雄. 2014. 生きもの出会い図鑑 日本の桜. 175 pp. 学研教育出版.

当農場のコレクションは学術研究の材料としても多数利用されており、その例としては以下のようなものがある。

Iwatsubo Y, T. Kawasaki and N. Naruhashi. 2003. Chromosome numbers of 41 cultivated taxa of *Prunus* subg. *Cerasus* in Japan. *J. Phytogeo. Tax.* 51: 165-168

加藤珠理, 勝木俊雄, 岩本宏二郎, 松本麻子, 吉丸博志. 全国の植物園等で保存されているサク

ラの栽培品種のDNA分析による実態解明, 2015. 日本森林学会大会発表データベース 126 :309

大原隆明, 武田 宏, 吉井純子, 南端外治. 2021. 富山県で見出されたタカサゴ系の2新栽培品種. 櫻の科学 23: 13-22.